

会 告 目 次

研究発表会開催通知	2
第 83 回 ソフトウェア工学研究会	2
第 71 回 マイクロコンピュータとワークステーション研究会	3
第 61 回 設計自動化研究会	4
第 55 回 グラフィクスと CAD 研究会	4
第 13 回 研究会 情報処理学会音楽情報科学研究グループ研究発表会	5
論文賞候補の論文推薦のお願い	6
平成 4 年度会費および論文誌・欧文誌購読費の納入について	6
第 44 回 全国大会（平成 4 年前期）概要について	7
第 45 回 全国大会（平成 4 年後期）の開催について	7
奨励賞候補の推薦について	8
第 44 回 全国大会予約案内	9
会員名簿（平成 3 年版）の頒布について	11
第 44 回 全国大会「チュートリアル・セッション」開催について	11
「知識ベースシステムにおける高速推論技術」チュートリアル開催について	13
本会協賛等の行事案内	13
ソフトウェア工学小規模国際会議 '92 (JCSE '92) 参加者募集	15
FGCS '92 第五世代コンピュータ国際会議 1992	16
IFIP CALL FOR PAPERS IWAR '92	18
ISAAC '92—Call for Papers—	19
有料会告について	20
情報処理学会研究報告, 全国大会講演論文集, シンポジウム論文集および 学会単独主催の国際会議 Proceedings に掲載された論文等の著作権の取扱いについて	21
大学等における情報処理教育のための調査研究報告書頒布のお知らせ	22
「情報システムの計画と設計」平成 3 年 12 月上旬刊行	23
支部だより	24
会 議 案 内	25
教 官 募 集	26
雑 報	27

研究発表会開催通知

(平成4年1月15日～2月29日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
ヒューマンインタフェース	1月16日(木)	11:00～16:50	機械振興会館	前号参照
自然言語処理	1月16日(木) 1月17日(金)	13:00～17:00 10:00～15:40	中京大	同上
人 工 知 能 } 合 同 記 号 処 理 }	1月16日(木) 1月17日(金)	13:00～17:15 9:20～12:00	芝蘭会館	同上
コンピュータと教育	1月17日(金)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
情報システム	1月21日(火)	13:30～17:00	同上	同上
マルチメディア通信と分散処理	1月23日(木)	10:00～17:00	同上	同上
コンピュータビジョン	1月23日(木) 1月24日(金)	9:00～18:30 9:00～12:00	阪大	同上
計算機アーキテクチャ	1月23日(木) 1月24日(金)	13:30～18:00 9:00～12:00	紫明荘	同上
アルゴリズム	1月24日(金)	10:30～17:00	日電(川崎)	同上
ソフトウェア工学	2月6日(木) 2月7日(金)	9:30～17:50 9:00～17:50	東北大	下記参照
マイクロコンピュータとワークステーション	2月7日(金)	13:00～17:00	機械振興会館	同上
設計自動化	2月21日(金)	13:00～17:00	同上	同上
グラフィクスとCAD	2月21日(金)	13:30～17:40	日電(大阪)	同上

◆ 第83回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 21件)

(主査: 原田賢一, 幹事: 宇都宮公訓, 大槻 繁, 大蔭和仁)

日 時 平成4年2月6日(木) 9:30～17:50

7日(金) 9:00～17:50

会 場 東北大学 電気通信研究所 大会議室

〔仙台市青葉区片平 2-1-1, JR: 仙台下車, 地下鉄: 五ツ橋下車, 徒歩5分. Tel. 022 (227) 6200〕

議 題

2月6日(木)

—9:30～12:20—

- (1) ソフトウェア変更時の効率的なテストケースの生成手法

古谷信俊, 小野康一, 深沢良彰, 門倉敏夫 (早大)

〔概要〕 変更を受けたソフトウェアに対し, 仕様とプログラムの情報から効率的なテストケースを生成する手法。

- (2) オブジェクトインタフェースの整合化方式の提案

岸本芳典, 小高信人, 本位田真一 (IPA)

〔概要〕 オブジェクトのインタフェースを連携相手に適合化し, オブジェクトの結合を容易化する整合化方式。

- (3) 統合化 CASE システム SoftDA の機能とその評価

黒木宏明, 磯田定宏 (NTT)

〔概要〕 リポジトリにより開発作業の自動化, 機械支援を目指した統合化 CASE の機能およびその評価結果。

- (4) リモートプルダウンメニュー方式の提案とその実験的評価

山本康友, 魚井宏高, 辻野嘉宏, 都倉信樹 (阪大)

〔概要〕 プルダウンメニュー方式の使いやすさを保持し, 選択効率を改善したメニュー方式の提案と評価。

会 報

—13:30~17:50—

(5) オブジェクト指向による FA 用外部装置の仮想化手法

磯崎賢一 (九工大), 大畑浩司 (安川情報), 松本俊哉, 打浪清一 (九工大), 植田敬子 (安川情報)

〔概要〕 オブジェクト指向によって外部装置を仮想化し, FA ソフトウェアの開発効率を向上させる手法.

(6) 代数的仕様による制御装置仕様の記述と検証

山本純一, 大須賀昭彦, 本位田真一 (東芝)

〔概要〕 装置の制御ソフトウェアを例題とした代数的仕様記述法による仕様記述・自動検証実験の結果.

(7) 日常的世界観にもとづく実行可能な仕様記述言語 NAIVE

日野克重 (富士通)

〔概要〕 日常的世界観にもとづいて対象を記述する言語 NAIVE の, 世界観および言語仕様.

(8) 構造化分析手法のドキュメントの理解容易性の評価

高橋健司, 岡 敦子, 山本修一郎, 磯田定宏 (NTT)

〔概要〕 要求仕様書の理解, 誤り検出, 影響解析作業に対する構造化分析手法の効果の評価実験.

(9) 大規模通信ソフトウェアの統合化開発支援環境

金地克之, 加賀谷聡 (東芝)

〔概要〕 大規模な通信システムを効率よく高信頼性のもとに分散開発するための通信ソフトウェア開発支援環境.

(10) LOTOS の視覚的支援について

更科克幸, 安藤津芳, 太田正孝 (AIC), 高橋 薫 (東北大)

〔概要〕 形式的仕様記述技法 (LOTOS) の図的表現を用いた支援環境についての必要性, 発展性の考察.

2月7日 (金)

—9:00~12:30—

(11) VDM '91 (Formal Software Development Methods) 報告

峰尾欽二 (日本ユニシス)

〔概要〕 VDM, Z をはじめ, 欧州で活躍している形式的ソフトウェア開発法をすべて網羅した画期的会議の報告.

(12) ソフトウェアプロセスにおける協調メカニズムの抽象化について

松浦佐江子, 本位田真一 (IPA)

〔概要〕 仕様化プロセスにおける仕様の抽象化・具体化についてのソフトウェアプロセスの記述に基づく考察.

(13) 集合に基づく形式的言語を使ったソフトウェア仕様の記述形態について

来間啓伸, 大槻 繁 (日立)

〔概要〕 対象とする世界を抽象化する要素概念の点から, 形式的仕様の記述スタイルを3つに分け比較.

(14) LOTOS によるソフトウェアプロセス記述を支援するツール

吉田光輝, 佐伯元司 (東工大)

〔概要〕 ソフトウェアプロセスの LOTOS による形式的記述を支援・実行するツール.

(15) 協調型ソフトウェア設計過程のモデル化と知的支援方法について

古宮誠一 (IPA)

〔概要〕 ソフトウェア分散開発を可能にするための, 協調型設計過程のモデル化方法と支援方法.

—13:30~17:50—

(16) オブジェクト指向プログラム開発時における制約評価

宮永靖之, 佐藤康臣, 岡本康介, 平川正人, 市川忠男 (広島大)

〔概要〕 プログラム開発時に制約の正当性を検証することによって, プログラムの信頼性を向上させる方法.

(17) オブジェクト指向分析の定式化

小高信人, 岸本芳典, 本位田真一 (IPA)

〔概要〕 分析プロセスにおける中間生成物間の因果関係の記述により, round-trip 型分析を支援する方法論.

(18) オブジェクト指向と状態遷移モデルによるシーケンス制御用言語

滝田啓司, 酒井 充, 長谷博行, 米田政明 (富山大)

〔概要〕 シーケンス制御のプログラミングのために, オブジェクト指向と状態遷移モデルに基づく言語の試作.

(19) 複数の機能を備えた多重オブジェクト

岡本康介, 佐藤康臣, 宮永靖之, 平川正人, 市川忠男 (広島大)

〔概要〕 OOP 上で1つのオブジェクトが文脈に依存して複数の意味をもつジェネリックオブジェクト.

(20) Compositional Adjustment of Concurrent Programs

内平直志, 荒見美香子, 本位田真一 (東芝)

〔概要〕 並行プログラム開発支援システム MENDELS ZONE におけるプログラム合成法.

(21) 制御系ソフト自動生成システム

田中博明, 田中誠一郎 (東芝)

〔概要〕 タイミングの書き方と生成ルールを工夫した, タイムチャートからラダー図プログラムを自動生成する.

◆ 第71回 マイクロコンピュータとワークステーション研究会

(発表件数: 3件)

(主査: 加藤肇彦, 幹事: 金子博昭, 氷治義弘, 山田 剛)

日 時 平成4年2月7日 (金) 13:00~17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 研修2号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, または JR: 浜松町下車, バス: 渋谷—東京タワー線東京タワー, 渋谷—東京駅八重洲線虎の門5丁目下車. Tel. 03 (3434) 8211〕

議 題 特集: マイクロコンピュータと社会

(1) 特別講演: 21世紀の展望—パソコンリテラシ

渡邊 茂 (パーソナルコンピュータユーザ利用協会)

〔概要〕 学校, 家庭, 事務所, 工場などの交通・通信の21世紀に向けての展望を行う.

(2) 特別講演: マイクロコンピュータ応用開発を担うシステムハウスの現状と将来動向

三田 輝 (日本システムハウス協会)

〔概要〕 マイクロコンピュータの応用開発におけるシステムハウスの役割および現状と将来動向について述べる。

(3) パネル討論：マイクロコンピュータの過去・現在・未来 司会：加藤肇彦（日立）

パネリスト：森 亮一（筑波技術短大）、石田晴久（東大）、安田寿明（東京電機大）
若島陸夫（日本ユニシス）

〔概要〕 歴代主査による草創期のマイクロコンピュータ・現在の状況・将来の予測・社会へのインパクト等についてのキーノートスピーチにつづくパネルディスカッション

* 当回は本研究会の最終回になります。皆さまの多くの聴講を期待します。

◆ 第61回 設計自動化研究会

（発表件数：8件）

（主査：小澤時典，幹事：川戸信明，佐藤政生，村岡道明）

日 時 平成4年2月21日（金）13：00～17：00
会 場 機械振興会館 6階 67号室（所在地は前記参照）
議 題

(1) レイアウトデータ管理システム上の各種データ構造の評価

池田泰人，池田栄一郎，栗島 亨，久保田和人，佐藤政生，大附辰夫（早大）

〔概要〕 標記管理システム上の各種図形処理用データ構造を配線アプリケーションを用いて評価する。

(2) 機能図データの多元版数管理法

小林一夫，若林春夫（NTT）

〔概要〕 3種類の属性で管理する際の，オープンコンフィギュレーションの一実現を報告する。

(3) FDL を用いたゲートレスデザインシステム

尾藤龍茂（日電）

〔概要〕 各種コンピュータ開発に用いる HW 記述言語 FDL ベースの設計法およびその CAD システムを述べる。

(4) アナログ回路設計のためのフロアプラン・ツール

諏佐秀哉，佐々木尚（東芝）

〔概要〕 アナログ制約の実現をより正確にフロアプランに反映させるための対話的ツールを提案する。

(5) アナログモジュールを対象としたレイアウト設計システム

松尾道明，朝倉浩治，川口 透，Imbaby I. Mahmoud，栗島 亨，佐藤政生，大附辰夫（早大）

〔概要〕 アナログモジュールのレイアウト設計システムにおける，配置，配線スペーシング手法について述べる。

(6) ICCAD 報告

石浦菜岐佐（京大）

〔概要〕 ICCAD 91 で発表された機能設計，論理設計，テスト設計などの分野の論文に関する報告を行う。

(7) ICCAD 報告

谷 勝則（日電）

〔概要〕 ICCAD 91 において発表された論文のうちレイアウト関連の論文を中心に報告を行う。

(8) ADEE 報告

佐藤政生（早大）

〔概要〕 ADEE 91 で行われた大学 CAD デモンストレーションの状況を中心に報告を行う。

◆ 第55回 グラフィクスと CAD 研究会

（発表件数：5件）

（主査：中嶋正之，幹事：宇野 栄，西原清一，間瀬健二）

日 時 平成4年2月21日（金）13：30～17：40
会 場 日本電気 関西ビル 31階 プレゼンテーションルーム

〔大阪市中央区城見 1-4-24，JR（大阪環状線，片町線），または京阪電車：京橋（大阪ビジネスパーク（OBP）方面出口）下車，徒歩約10分。Tel. 06（945）1111〕

議 題

(1) 3次元情報操作のためのユーザインタフェースの実現 — 視点と光源の直接操作方式—

中村康浩（松下電器）

〔概要〕 CAD 等の3次元画像処理システムで重要な視点や光源の直接操作インタフェース。

(2) 半空間プリミティブによる対話的 CSG モデル 久保寺玄一郎，岡田 稔，横井茂樹，鳥脇純一郎（名大）

〔概要〕 半空間プリミティブを用いる CSG モデリングにおける対話処理システム。

(3) 設計問題の制約指向による改良解導出

上田祐彰，山縣敬一（広島大）

〔概要〕 機械設計で制約ネットワーク上を変数値を伝播させる時の人の意図と数理モデルの融合。

(4) バンプ・マップ表面上の影付けの一手法

角 浩一，乃万 司（九工大）

〔概要〕 バンプ・マップされた面上への点光源の直接光による影付けの簡易表示法。

(5) チュートリアル：自由曲面のレンダリング手法

西田友是（福山大）

〔概要〕 多角形近似を用いない曲面のレンダリング，表示手法。

◆ 第13回 音楽情報科学研究グループ研究発表会

(発表件数: 3件)

(主査: 平田圭二, 幹事: 鈴木 孝, 増井誠生, 志村 哲)

日 時 平成4年2月11日(火) 13:30~16:30

会 場 目黒区中小企業センター 第1集会室

〔東京都目黒区目黒 2-4-36, 目黒区民センター内, JR: 目黒下車, 徒歩10分, またはバス(大岡山小学校行, 三軒茶屋行): 権之助坂下車, Tel. 03 (3711) 1121〕

議 題

(1) 人間の聴覚的特性に基づいた音源分離同定システムの構成 柏野邦夫, 田中英彦(東大)

〔概要〕 人間の音源分離要因に関する実験結果と, それに基づいて計算機上に実装された実験システム。

(2) Towards formalization of jazz harmony theory 平田圭二(ICOT), 青柳龍也(電通大)

〔概要〕 jazz 和声理論の形式化へ向けて, 制約論理型言語を用いた手法を提案する。

(3) ICMC 91 参加報告 長嶋洋一(河合楽器)

〔概要〕 ICMC 91 の報告と, 1993年の日本開催が決定した ICMC について報告する。

* 問合せ先 納本 淳(ヤマハ) Tel. 03 (3719) 3117

◆ 情報メディア研究会

第5回 研究会を下記のとおり開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。なお、詳細は次号(2月号)の本欄にてお知らせいたします。

日 時 平成4年3月2日(月) 9:00~17:00

会 場 日本電気 本社ビル 地下1階 多目的ホール(東京, 田町)

議 題

(1) リアリティユーザインタフェース 神場知成(日電)

(2) 音声と映像コマンドを統合したマルチメディアインタフェース 間瀬健二, 末永康仁(NTT)

(3) 地図情報処理におけるマルチメディア DB 嶋田 茂(日立)

(4) 究極のコミュニケーション —パソコン通信からハイパーネットワークへ—
会津 泉(ネットワーキングデザイン研究所)

(5) 高度情報社会と身体性 大山茂夫(朝日新聞)

(6) パネル討論: 情報メディア時代のコンピュータイメージ処理
—マルチメディア化を待ち受ける感性と慣性の壁— 司会 田村秀行, 北村素子(キャノン)

① 通信分野の立場から 小野定康(NTT)

② 放送分野の立場から 柴田正啓(NHK)

③ 印刷・出版分野の立場から 石塚英男(電子ライブラリーコンソーシアム)

④ AV 機器メーカーの立場から 阿部祐三(三洋電機)

⑤ デザイン分野の立場から 犬平智広(東海大)

◆ ヒューマンインタフェース研究会

第42回 研究会の発表を下記のとおり募集します。奮ってご応募ください。

日 程 平成4年5月11日(月)・12日(火)

会 場 東京大学 山上会館

議 題 特集: 人工現実感

発表申込締切 平成4年2月28日(金)

*本研究会は電子情報通信学会(ヒューマンコミュニケーション研究会), 計測自動制御学会(ヒューマンインタフェース部会)との共催で開催します。

◆ ソフトウェア工学研究会

第85回 研究会の発表を下記のとおり募集します。

日 程 平成4年5月21日(木)

会 場 日本電気 本社ビル

発表申込締切 平成4年2月28日(金)

論文賞候補の論文推薦のお願い

平成3年度論文賞の候補論文を推薦される会員は、下記事項を参考のうえ、論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名を官製はがきに記入のうえ、本会論文賞係宛お送りください。

論文選定条件

1. 選定範囲および推薦数

平成2年10月から平成3年9月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol. 31, No. 10~Vol. 32, No. 9)および「Journal of INFORMATION PROCESSING」(Vol. 13, No. 3 ~ Vol. 14, No. 2)に発表された論文の中から1編。

2. 推薦資格

本会正会員に限ります。

3. 締切日

平成4年1月31日(金)

表彰規程(抜粋)

第3章 論文賞

- 第9条** 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。
- 第10条** 表彰する論文は、原則として毎年4編とするが、編数は事情により変更することができる。
- 第11条** 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の10月から前年の9月までの間に発表されたものであることを要する。
- 第12条** 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。
- 第13条** 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。
- 第14条** 論文賞は、賞状、賞牌および賞金とする。賞金は、論文1編につき30,000円とする。

平成4年度会費および論文誌・欧文誌購読費の納入について

あけましておめでとうございます。昨年同様に本年もよろしくお願い申し上げます。

早速ですが、平成4年度会費および購読費の納付書(郵便振替用紙)を1月中旬に発送いたしますので、納入かたよろしくお願い申し上げます。(会費、購読費は前年度と同じで据置き。)

会費 正会員 9,600円 学生会員 4,800円 (大学院修士課程まで)

購読費 論文誌 4,500円 欧文誌 3,000円

申すまでもありませんが、会費は前納を建て前としておりますので、3月末日までに率先して納入いただきたく存じます。

ただし、3年度購読費滞納の方には、別途各自にその旨連絡いたしました。2月20日までに未納の場合には、3月号から学会誌および購読誌の送付をストップいたしますので、早急にご納入ください。(会費滞納者は9月号から学会誌・購読誌の送付をストップしております。)

また、「論文誌」(月刊)および「欧文誌」(季刊)は有料頒布です。まだ購読されていない会員は本年から購読されることをお勧めします。新規購読希望の方はその旨振替用紙通信欄にご記入くださるか、11月号本欄添付の購読申込書によりお申込みください。

(自動振替納入利用の会員へ)

会費および購読費を3月27日に振替えますので、その前に預金残高を確認いただき、振替不足にならぬようにご留意ください。なお、振替金額は3月上旬にご通知いたします。振替えされた場合には預金通帳の摘要欄に「ダイヤモンドファクター」または「コウザフリカエ」と印字されますのでご確認ください。

第44回 全国大会（平成4年前期）概要について

- 開催期日** 平成4年3月17日（火）～20日（金）
- 会場** 明治大学理工学部（川崎市多摩区東三田）
- 参加費** 電子情報通信・電気・照明・テレビジョン各学会会員は本会会員扱いとします。（賛助会員は正会員に準じます。）
 会員 1,000円 非会員 2,000円 学生無料
- 論文集・参加予約** 2月3日（月）締切り
 分冊 予約価各4,000円（定価各6,000円）
 セット（6分冊一揃、講演者索引・カバー付）
 予約価24,000円（定価36,000円）
- プログラム** プログラムの詳細は2月号に掲載されます。
- 招待講演1** （3月18日 13:00～14:00）
 A Gentle Introduction to Genetic Algorithms David E. Goldberg (Univ. of Illinois)
- 招待講演2** （3月19日 12:30～13:30）
 人工現実感 森田 修三（富士通研）
- パネル討論** （3月20日 12:30～14:45）
 グループウェアの展望と課題 (司会) 松下 温（慶大）
 パネラ 落合 勲（信州短大）、国藤 進（富士通研）、阪田 史郎（日電）、
 滝沢 誠（電機大）、正木 茂樹（NTT）
- 一般セッション** （論文発表申込1054件）
- 奨励賞の表彰** 第43回 全国大会奨励賞受賞者の表彰を本大会時に行います。
- チュートリアル・セッション** （3月17日 10:00～17:00）
- ・機械学習
 - ・オブジェクト指向データベースシステム

第45回 全国大会（平成4年後期）の開催について

平成4年度秋の第45回 全国大会は下記により開催される予定です。大会実施要領は4月号本欄に掲載されますので、ご留意ください。

- 期日** 平成4年10月11日（日）～14日（水）
- 場所** 徳島大学教養部（徳島市南常三島町）

奨励賞候補の推薦について

全国大会で優秀な論文を発表した会員の中から、大学学部卒業後10年未満（またはこれと同等）の若手の科学者・技術者約10名を選び、奨励賞を贈呈し表彰いたしております。

つきましては、来る3月18日～20日に明治大学で開催される第44回全国大会での登壇発表者の中から、下記より受賞候補者1名をご推薦くださいますようお願いいたします。

また、第44回全国大会参加者には会場に推薦用紙を用意してありますので、会場でご推薦くださるようお願いいたします。

なお、受賞者の選定は奨励賞委員会（委員長 小林副会長）で行い、その発表と表彰は本年10月に開催の第45回全国大会（徳島大学）時に行われる予定です。

記

選定範囲および推薦数

第44回全国大会で発表された優秀な論文の登壇発表者1名

推薦資格 本学会正会員に限る。

推薦方法 官製はがきに、推薦する論文の ①講演番号 ②題目 ③登壇発表者名 ④所属 ⑤出身校(学部)卒年 ⑥推薦理由および推薦者の氏名、所属、住所をもれなくご記入のうえ、本会奨励賞係あてお送りください。

推薦締切 平成4年3月27日（当日消印有効）

表彰規程(抜粋)

第5章 奨励賞

第19条 奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第20条 奨励賞を受ける者は、全国大会において優秀な論文を発表した者で、つぎの各号に該当する者から選定する。

- イ 選定の時期において本会会員であること（選定の時期とは、第1回の委員会開催時とする。）
- ロ 講演の時期において大学の学部卒業後10年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ 大会参加申込の際講演者として登録かつ講演を行った者であること。
- ニ 本奨励賞を受けたことのないものであること。

第21条 第20条の選定は、全国大会終了後速やかに行う。

第22条 奨励賞は、毎回約10名ずつ選定し、贈呈する。

第23条 奨励賞は、賞状、賞牌および賞金とする。

賞金は、1名につき20,000円とする。

第44回全国大会予約案内

第41回全国大会(平成2年後期)から、講演論文集の分売制を導入いたしました。これにより、論文集の価格が大幅に変わりましたので、購入担当者の方にはご注意ください。

つきましては、講演論文集・参加の「予約」を募集いたしますので、ぜひお申込みくださいますようお願い申し上げます。

期 日：平成4年3月17日(火)～20日(金)

会 場：明治大学理工学部(川崎市多摩区東三田)

論文集：B5判オフセット印刷 ※論文集価格は消費税・送料込です

■第1分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

情報科学一般
基礎理論及び基礎技術
ネットワーク
応用

■第2分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

人工知能及び認知科学
人工知能システム
パターン認識
生体情報処理
感性情報処理
データ処理
音声処理
画像・図形処理

■第3分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

人工知能及び認知科学
基礎理論
自然言語処理
データ処理
テキスト処理
マルチメディア処理

■第4分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

ソフトウェア
基礎理論
オペレーティングシステム
データベース・情報検索
プログラミング技術
信頼性と安全性

■第5分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

ソフトウェア
プログラム言語及び仕様記述言語
言語処理系
ツール
ソフトウェア工学

■第6分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

ハードウェア
システム

■セット(上記6冊一揃、講演者索引・カバー付)……………予約価24,000円

(定価36,000円)

参加費(プログラム・参加章含む)：会 員1,000円(賛助会員は正会員に準じます)。

非会員2,000円, 学生 無料

申込締切：平成4年2月3日(月)必着

(締切後は予約扱いいたしませんので、ご了承ください)

第44回(平成4年前期)全国大会 論文集・参加予約申込書

■申込締切：2月3日(月)必着

分冊	予約価(円)	部数	金額(円)
第1分冊	4,000		
第2分冊	4,000		
第3分冊	4,000		
第4分冊	4,000		
第5分冊	4,000		
第6分冊	4,000		
セット(6冊一揃)	24,000		
参加費 (プログラム, 参加章 含む)	会員 1,000		
	非会員 2,000		
合計			

平成4年 月 日
上記の通り予約いたします。

(論文集価格は消費税・送料込)

1. 代金は 郵便振替, 銀行振込* (該当にレ印) 送金月日 月 日
*全国大会専用銀行口座「三菱銀行虎ノ門公務部情報処理学会講習会普通口座
No. 0003774」
2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通が必要です。
〔注意〕団体名でまとめて送金される場合には, 別紙に送金内訳を記入して事務局
までお送りください。

通信欄:

3. 担当者名 _____ Tel. _____ (内 _____)
4. 申込先: 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3F
(社)情報処理学会 全国大会係 Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

..... (切りはなさないでください)

(送本先住所) (楷書でハッキリ記入してください)

〒

(機関名)

(氏名) _____ 殿

(Tel.) _____

[部数] (記入しないでください)

論 (1 2 3 4 5 6 ⊕) プ・参

会員名簿（平成3年版）の頒布について

平成3年8月現在の会員（会員番号では9109891まで）を収録した会員名簿（B5判，1059ページ）が発行されました。予約者には12月上旬に発送しましたのでご確認願います。なお，多少残部がありますので希望者は下記によりお申込みください。

記

価 格 会員定価 9,500円（消費税，送料込）
申込方法 所要事項および送金方法を記入（様式適宜）し，申込と同時に送金ください。
 郵便振替口座番号，取扱銀行，送金先等は目次欄にあります。



第44回 全国大会「チュートリアル・セッション」開催について

本会では，全国大会の前日にチュートリアル・セッションを開催することにしております。多数の会員が一堂に会する機会にチュートリアル・セッションを開催し，会員の方々の関心のあるテーマを取りあげ，理解を深めたいと考え，この分野の第一線でご活躍の専門家により，最新の技術，さらには将来展望をも含めたチュートリアル・セッションを考えております。

つきましては，標記チュートリアル・セッションを下記により企画いたしました。この機会に奮ってご参加されるようお勧めいたします。

日 時 平成4年3月17日（火）10：00～17：00
場 所 明治大学理工学部（川崎市多摩区東三田）
参加費 会員 10,000円 非会員 15,000円 学生 1,500円
 （どのセッションも聴講できます。）
 （資料のみ4,000円，送料込）
申込締切 平成4年2月28日（金）
 プログラムの詳細は2月号に掲載します。
 ・機械学習
 ・オブジェクト指向データベースシステム

第 44 回 全国大会「チュートリアル・セッション」

参 加 申 込 書

平成 4 年 月 日

標記チュートリアル・セッションの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生 (含大学院生) 1,500 円

*参加費には, 資料代が含まれています。

○テキストのみ (4,000 円, 送料込) _____冊

○申 込 先 情報処理学会 チュートリアル係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

○送金方法

* _____円を a) 当日, 会場受付にて支払います。

b) _____月 _____日送金します。

* (b を選択した方のみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 チュートリアル係)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____銀行宛

・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より

・送金人名義 _____様

*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 **T** _____

所属名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX. _____

「知識ベースシステムにおける高速推論技術」 チュートリアル開催について

知識ベースシステムの推論の高速化技術は、人工知能、知識処理の基盤として、また現在および今後の実用システム作成上で極めて重要であります。高速推論技術がともなわなければ、実用規模の知識ベースは知的能力を発揮することができません。

人工知能研究会では知識処理の基盤技術の研究・開発、および実用システム開発に携わっている方々を対象にして、推論の高速化達成へ向けての技術に焦点を当てて、標記チュートリアルを企画いたしました。推論の高速化に関する技術・話題を複数の視点から、それぞれの専門家に下記のように解説していただきます。この機会を利用し、多数ご参加されるようお勧めいたします。

日 時 平成4年2月12日(水)、13日(木)
会 場 機械振興会館 研修1号室(地下3階)(東京都港区芝公園 3-5-8)
参加費 会員 25,000円, 非会員 33,000円, 学生 5,000円 (テキスト代を含む)
申込締切 平成4年1月31日

~~~~~プログラム~~~~~

第1日 2月12日(水)

10:00~11:45	プロダクションシステムの高速化技術	増位 庄一(日立)
13:00~14:45	ATMSにおける高速化技術	奥乃 博(NTT)
15:00~16:45	制約充足問題の高速解法	西原 清一(筑波大)

第2日 2月13日(木)

9:40~11:25	ニューラルネットワークによる高速並列解法	秋山 泰(電総研)
12:45~14:20	知識ベースのコンパイルによる高速推論法	石塚 満(東大)
14:30~16:15	合成型問題のための制約充足の高速解法	吉田 裕之(富士通研)

~~~~~

本会協賛等の行事案内*

第3回 研究部会合同シンポジウム「超企業ネットワーク」

平成4年3月7日(土) 神戸商科大学

91-No. 18 シンポジウム「Smart Vehicle の開発, 現状と課題」

平成4年3月31日(火) 東京・コクヨホール

ロボティクス・メカトロニクス講演会 '92

平成4年6月16日(火)~18日(木) 川崎市産業振興会館

第11回 シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス

平成4年6月24日(水)~25日(木) 川崎市産業振興会館(予定)

AI '92

平成4年7月7日(火)~9日(木) 東京流通センター

* 詳細は本号会議案内欄参照

「知識ベースシステムにおける高速推論技術」チュートリアル

参加申込書

平成 年 月 日

標記チュートリアル・セッションの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員 25,000円 非会員 33,000円 学生(含大学院生) 5,000円

*参加費には、資料代が含まれています。

○資料のみ (4,000円, 送料込) _____冊

○申込先 情報処理学会 「高速推論」チュートリアル係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

○送金方法

* _____円を a) 当日, 会場受付にて支払います。

b) _____月 _____日送金します。

* (bを選択した方のみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 チュートリアル係)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____銀行宛

・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より

・送金人名義 _____様

*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関名 _____

フリガナ
氏名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

会
社

ソフトウェア工学小規模国際会議 '92 (JCSE '92)

参加者募集

- 日 程** 平成4年3月25日(水)～3月27日(金)
- 場 所** 韓国 ソウル・オリンピックプラザ・ユースホテル
- 主 催** 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会 (IPSJ-SIGSE)
韓国情報科学学会 ソフトウェア工学研究会 (KISS-SIGSE)
- 共 催** 情報処理学会 (IPSJ: Information Processing Society of Japan)
韓国情報科学学会 (KISS: Korea Information Science Society)
- 協 賛** IEEE Computer Society 東京支部
韓国ソフトウェア工業会 (Korea Software Industries Association)
韓国科学工学財団 (KOSEF: Korea Scientific & Engineering Foundation)
電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会

プログラム

- 3月25日(水)** 8:30～18:30
テクニカルセッション (下記の3研究機関を訪問して、研究者と討論する.)
・KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology)
・KIST (Korea Institute of Science and Technology)
・ETRI (Electronics and Telecommunications Research Institute)
18:30～20:30 ウェルカムパーティ
- 3月26日(木)**
9:30～10:50 オープニング
基調講演: Laszlo A. Belady, Software Engineering Becomes Interdisciplinary
11:10～12:40 セッション1 (ユーザインタフェース 3件) セッション3 (オブジェクト指向モデル化 3件)
14:10～15:40 セッション2 (ソフトウェアの再利用 3件) セッション4 (ソフトウェア・プロセスモデル 3件)
16:00～18:30 パネルセッション (90年代のソフトウェア工学における研究課題)
18:30～20:30 レセプション
- 3月27日(金)**
9:30～11:00 セッション5 (統合化 CASE (1) 3件) セッション9 (プログラミング環境(1) 3件)
11:20～12:50 セッション6 (統合化 CASE (2) 3件) セッション10 (プログラミング環境(2) 3件)
14:20～15:50 セッション7 (仕様化と設計方法論 3件) セッション11 (ソフトウェアのテスト技法 3件)
16:10～17:40 セッション8 (ソフトウェアメトリクス 3件) セッション12 (オブジェクト指向パラダイム 3件)
17:40～18:00 クロージングセッション

参加費 (平成4年2月28日まで/平成4年2月28日以降)

会 員	16,000円/20,000円	学生レセプション	4,000円/4,000円
非会員	20,000円/25,000円	テクニカルセッション	1,500円/1,500円
学 生	3,200円/3,200円		

注) 日本からの参加者に対して、ビザ取得を容易にするため、韓国の学会から招待状を参加者に送付いたします (ビザ取得手続きはお早めにお問い合わせいたします)。

問合せ先、参加申込等関係資料請求先

169 東京都新宿区大久保 3-4-1
早稲田大学理工学部情報学科 深澤良彰
Tel. 03 (3203) 4141 Ex. 73-5318
FAX 03 (3200) 1681
E-Mail: fukazawa@cfi.waseda.ac.jp

問合せ先

105 東京都港区芝公園 3-1-38
秀和芝公園3丁目ビル
情報処理振興事業協会 技術センター 古宮誠一
Tel. 03 (3437) 2301 FAX 03 (3437) 2537
E-Mail: komiya@stc.ipa.go.jp



第五世代コンピュータ国際会議1992

INTERNATIONAL CONFERENCE ON FIFTH GENERATION COMPUTER SYSTEMS 1992

1992年6月1日(月)～6月5日(金) 東京プリンスホテル

ごあいさつ

第五世代コンピュータ研究開発プロジェクトは、1990年代に重要となる知識情報処理を指向したコンピュータの実現を目指し、1982年に開始されました。その後、前期3年の基本技術開発、中期4年のサブシステム開発を経て、現在、第五世代コンピュータのプロトタイプシステムの開発を進めております。

このプロジェクトにおける研究活動は、論理プログラミングと並列処理を中核に据えた新しいソフトウェア、ハードウェアの研究開発という未知要素の多い困難な目標を目指してまいりましたが、幸い、その目標達成を目前にしております。特に知識処理パラダイムの展開と、その具体例としての並列論理型言語、及びそれにもづく並列推論マシンのソフトウェア、ハードウェアは、他に類を見ない画期的なものとなりつつあります。

このような状況を背景にして、ICOTは、10年間の第五世代コンピュータプロジェクトの最終成果を広く世界に開かれた技術として発表するために、「第五世代コンピュータ国際会議1992(FGCS'92)」を開催することと致しました。この会議では、並列推論マシンを中心とした第五世代コンピュータの中核技術と、その広範な応用可能分野を例示することに重点を置き、デモンストレーションを主体に研究成果を発表する計画です。

FGCS'92は過去3回の会議、FGCS'81、FGCS'84、FGCS'88に続いて行われるものですが、FGCSは、すっかり重要な国際会議の一つとして定着し、今では、多くの一流の研究者、技術者、関連する企業や政府関係者が世界中から参集し、研究成果の発表と意見の交換を行う場として高く評価されるようになってきました。

今回の会議も前回と同様に5日間を予定しており、前半の2日間はICOTの研究開発成果発表、招待講演など、後半3日間はテクニカルセッションにおいて、招待論文や投稿論文の発表、パネル討論などを行う計画です。

FGCS'92に参加することは、第五世代コンピュータプロジェクトの研究成果を理解する上で有益であるばかりでなく、諸外国における第五世代コンピュータ関連の最先端技術を把握できるとともに、各国の研究者との友好を深めるのに役立つものと確信しております。

この分野に関心をお持ちの皆様には是非、積極的にご参加いただき、本会議をより意義深いものにしていただきたいと念願しております。

第五世代コンピュータ国際会議1992
実行委員長 田中 英彦

開催要項



主催

財新世代コンピュータ技術開発機構 (ICOT)

後援

通商産業省

協賛

財情報処理学会
財電子情報通信学会
財人工知能学会
日本ソフトウェア科学会
The Computer Society of the IEEE 
The Association for Computing Machinery 
The Association for Logic Programming

日程

1992年6月1日(月)～6月5日(金)

会場

東京プリンスホテル
〒105 東京都港区芝公園3-3-1 電話(03)3432-1111

会議公用語

6月1日、2日——日本語、英語(同時通訳あり)
6月3日、4日、5日——英語

デモンストレーション

第五世代コンピュータプロジェクトの、研究開発成果のデモンストレーションを行います。

社交行事

・歓迎レセプション(無料): 6月1日(月)
午後6時30分
・バンケット(¥25,000/1名): 6月4日(木)
午後6時30分
バンケットスピーチ: 唐津 一(東海大学教授)

参加希望の方は申込書に記入のうえ、参加費を振込んで下さい。

参加予定人数
約1,700名

登録費

¥ 90,000 1992年3月31日までに
登録・入金済みの場合
¥ 110,000 1992年4月1日以降申込みの場合
¥ 10,000 学生
登録費には予稿集代(学生は除く)と消費税が含まれます。

申込み方法

参加申込みに関して、お問い合わせ及び申込みの資料の入手を希望される方は、下記事務局あて、電話もしくは、書面にてご連絡下さい。

事務局

〒108 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル21階
財新世代コンピュータ技術開発機構 (ICOT)
FGCS'92 事務局
電話(03)3456-3195 FAX(03)3456-1618
E-mail: fgcs92@icot.or.jp

組織

実行委員会
委員長 田中 英彦 東京大学
副委員長 古川 康一 ICOT

プログラム委員会

委員長 田中 穂積 東京工業大学
副委員長 雨宮 真人 九州大学
後藤 滋樹 NTT
溝口 文雄 東京理科大学

広報委員会

委員長 山本 欣子 JIPDEC
副委員長 村上 国男 神奈川大学

デモンストレーション委員会

委員長 黒住 恭司 ICOT
副委員長 内田 俊一 ICOT

会議日程

		9:30	午	前	午	後	5:30	夕		
5/31 (日)		登 録								
6/1 (月)	全 体	あいさつ ICOT理事長 実行委員長 祝辞 通商産業大臣 基調講演 通商産業省機械情報産業局長 ICOT研究所長 報告 プログラム委員長			招待講演 Erich Bloch (米、前米国科学技術 財団長官)		ICOT 研究開発総合報告 FGCSプロジェクト10年間の 概観 総括担当次長 FGCSプロジェクトにおける 基礎研究の展開 研究担当次長 並列推論マシンと基本ソフト ウェアの研究開発経緯 研究部長		歓迎 レセプション	デモ ン ス ト レ ー シ ョ ン (午 後)
6/2 (火)	会 議	招待講演 J.A.Robinson (米、シラキユース大学教授)			ICOT 研究成果報告 並列推論マシンPIM オペレーティングシステムPIMOS 知識ベース管理システム 制約論理プログラミングシステム 並列定理証明システムとその応用 自然言語処理ソフトウェア 並列応用実験ソフトウェア		ICOT 研究所 第1研究室 第2研究室 第3研究室 第4研究室 第5研究室 第6研究室 第7研究室		デモ ン ス ト レ ー シ ョ ン (午 前・午 後)	
6/3 (水)	テ ク ニ カ ル セ ツ シ ヨ ン	招待論文及び一般論文の発表(下記4セッション並行) 基礎理論 招待論文: Raymond Reiter (カナダ、トロント大学教授) アーキテクチャとソフトウェア 招待論文: William Dally (米、MIT教授) アプリケーションと社会的インパクト 招待論文: Ivan Bratko (ユーゴスラビア、ヨゼフ・ステファン研究所教授) ICOT 研究トピックス								
6/4 (木)										
6/5 (金)					招待講演 C. A. R. Hoare (英、オックスフォード大学 教授)	パネル討論 21世紀の情報処理への出発点 座長: Robert Kowalski (英、インベリアルカレッジ 教授)	閉 会 あ い さ つ ICOT 専 務 理 事			

デモンストレーション

第五世代コンピュータプロジェクトの最終成果の展示とデモンストレーションを行います。
 特に、並列応用実験ソフトウェアのデモンストレーションにおいては、並列処理の手法とその効果をわかりやすく解説します。

●並列推論マシン(PIM)
 プロセッサを1000台規模で結合したPIMを展示し、
 その上で、右のようなソフトウェアのデモンスト
 レーションを行います。

●基本ソフトウェア
 本格的な並列オペレーティングシステム
 (PIMOS)
 知識ベース管理システム

●先進的な知識処理ソフトウェア
 制約論理プログラミングシステム
 並列定理証明システム
 自然言語処理ソフトウェア など

●各種の並列応用実験ソフトウェア
 並列VLSI-CADシステム
 遺伝子情報処理システム
 法的推論システム など

IFIP CALL FOR PAPERS IWAR'92

INTERNATIONAL WORKSHOP ON AUTOMATED REASONING July 13-16, 1992, Beijing, China

Sponsor: The International Federation for Information Processing
 Co-Sponsor: Chinese Computer Federation
 Institute of Computing Technology, Academia Sinica
 China International Conference Center for Science and Technology

THE CONFERENCE

The International Workshop on Automated Reasoning is the truly forum for international scientific exchange and presentation of AI research on Automated Reasoning. The workshop brings together researchers, developers, and users of AI, Mathematics, Logic to share information and explore future directions in the field of automated reasoning.

We therefore encourage submission of original papers on topics from the following list:

TOPICS

Nonmonotonic Reasoning	Geometric Reasoning
Uncertainty Reasoning	Temporal Reasoning
Qualitative Reasoning	Multi-agent Reasoning
Analogical Reasoning	Constraint Reasoning
Search Strategy	Pansystem Theory

CONFERENCE CO-CHAIRMAN

R.Meersman (Netherlands) Wenjun Wu (China)

PROGRAM CO-CHAIRMAN

Zhongzhi Shi (China) B. Boyer (USA)

PROGRAM COMMITTEE

A. Aamodt (Norway)	U. Cortes (Spain)	Young-Hwan Lim (Korea)	Chunyi Shi (China)
D. Arnon (USA)	Shang-Chining Chou (USR)	Xuhua Liu (China)	Zhongzhi Shi (China)
A. Averkin (USSR)	S. Doshita (Japan)	Ruqian Lu (China)	M. Sugeno (Japan)
G. Barth (Germany)	D. Driankov (Sweden)	Madden (UK)	Wenda Wu (China)
S. Bhattacharya (India)	J. Gabriel (USA)	M. Mares (Czecho-Slovakia)	Xuemou Wu (China)
Z. Bubnicki (Poland)	E. Hollnagel (Denmark)	F. Mizoguchi (Japan)	R. Yager (USA)
A. Callatay (Belgium)	D. Kapur (USA)	D. Poole (Canada)	D. Yun (USA)
C. Carlsson (Finland)	H. Kopperlaar (Netherlands)	D. Pospelov (USSR)	Jinwen Zhang (China)
A. Colmerauer (France)	Wei Li (China)	H. Prade (France)	

SUBMISSION OF PAPERS

To submit papers, three copies of an original paper of up to 5000 words in English are required. The paper should include author's names, affiliations, complete addresses and telephone/fax number. All paper submissions should be to:

Prof. Zhongzhi Shi
 Institute of Computing Technology
 Academia Sinica
 P.O. Box 2704
 Beijing 100080, China
 Tel: (86-1)2565533-419
 Fax: (86-1)2567724

IMPORTANT DATES

March 1,1992	Paper submission deadline
March 20,1992	Notification of acceptance
April 20,1992	Camera-ready deadline

ISAAC '92 — Call for Papers —**Third Annual International Symposium on Algorithms and Computation
Nagoya, Japan, December 16–18, 1992**

The Third Annual International Symposium on Algorithms and Computation will be held in Nagoya, Japan, on December 16–18, 1992. Its purpose is to provide a forum in Asia for researchers working in algorithms and theory of computation. The first one was held 1990 in Tokyo, Japan, as *SIGAL International Symposium on Algorithms*, and the second one is to be held 1991 in Taipei, Republic of China, as *Second Annual International Symposium on Algorithms*.

Scope of Topics and Technical Program:

The symposium focuses on topics in design and analysis of algorithms, computational complexity, and theory of computation. Typical areas include (but are not limited to):

- algorithms and data structures
- automata and formal languages
- computability and complexity
- computational geometry
- parallel/distributed computing
- probabilistic/approximation algorithms
- term rewriting systems

Authors should send 15 copies of an extended abstract before **May 15, 1992**, to the Program Committee Co-Chair

Kazuo Iwama (e-mail: iwama@csce.kyushu-u.ac.jp)
Dept of Computer Science and Communication Engineering
Kyushu University, Hakozaki, Higashi-ku, Fukuoka, 812, Japan

(For faster communication, please include your e-mail address.)

The extended abstract (at most 10 pages, NOT A FULL PAPER) should provide sufficient detail to allow the program committee to evaluate its validity, quality and relevance to the symposium. Author will be notified of acceptance or rejection by **July 15, 1992**. The proceedings are accepted in principle for the publication in the Springer-Verlag Lecture Notes in Computer Science series.

Symposium Chairs:

Y. Inagaki (Nagoya U., Japan) and T. Ibaraki (Kyoto U., Japan)

Symposium Co-Chairs:

Y. Igarashi (Gunma U., Japan) and A. Maruoka (Tohoku U., Japan)

List of Invited Speakers:

R. Book (UC Santa Barbara, USA), M. Iri (U. Tokyo, Japan), D.T. Lee (Northwestern U., USA), M. Paterson (U. Warwick, UK), P. Toth (U. Bologna, Italy), and U. Vishkin (U. Maryland, USA & Tel Aviv U., Israel).

Program Committee:

D. Gill (McGill U., Canada)	R.C.T. Lee (Tsing Hua U., ROC)
F. Chin (U. Hong Kong, HK)	T. Nishizeki (Chair; Tohoku U., Japan)
B. Courcelle (U. Bordeaux I, France)	T. Oyamaguchi (Mie U., Japan)
P.D. Eades (U. Queensland, Australia)	K. Sugihara (U. Tokyo, Japan)
K. Hagihara (Osaka U., Japan)	S. Toda (U. Electro-Comm., Japan)
O. Ibarra (UC Santa Barbara, USA)	T. Tokuyama (IBM TRL, Japan)
K. Iwama (Co-Chair; Kyushu U., Japan)	

有 料 会 告 に つ い て

本会の共催行事の次第書（論文募集、参加案内等）の会告欄掲載は従来から有料で取扱い、協賛・後援行事については取扱っていないが、今後は協賛・後援行事についても希望があれば、下記により有料で掲載しますのでお知らせします。

なお、会議案内欄への掲載については従来どおり無料です。また、教官募集欄の掲載は、平成4年4月号掲載分から、下記のとおり有料となりますので、あわせてお知らせします。

記

1. 掲載条件

件名	内 容	掲載単位	掲載料金
行事次第書	国際会議、シンポジウム、講演会、講習会等の論文募集・参加案内に限る	1 ページ または 1/2 ページ	(共 催)
			1 ページ 50,000 円 1/2 ページ 30,000 円
教職員募集	学校またはその附属機関、公益法人、官公庁およびその研究機関等の教職員・研究員募集に限る	1/5 ページ	(協賛・後援)
			1 ページ 100,000 円 1/2 ページ 60,000 円
			1 件当たり 20,000 円

2. 申込方法

B5判任意の用紙で、件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先等を記載し、掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申込みください。

3. 原稿の書き方

行事次第書：原則としてB5判カメラレディとします。B5判以外の原稿は縮少または拡大となりますのでご注意ください。なお、原稿作成にあたり様式（字の大きさ、ゴシック等）については、本誌会告記載内容をご参照願います。

教職員募集：求人側の必要事項を明記してください。

また、記事内容については本会は責任を負いません。

4. 申込期限

毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

5. 掲載料金

掲載号発行後に料金を請求いたしますので、その翌月月末までにお支払いください。

6. 掲載申込先

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 有料会告係
Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

情報処理学会研究報告，全国大会講演論文集，シンポジウム論文集 および学会単独主催の国際会議 Proceedings に掲載された論文等 の著作権の取扱いについて

標記学会出版物に掲載された論文等の著作権の取扱いについてはすでにお知らせしたとおり，国内外での科学技術情報の交流の拡大に伴い，標記論文等についても転載の許諾を求める要請が増加するとともに，無断複写（コピー）等の著作権の侵害もまた増加することが考えられますので，標記論文等についても著者に不利益が生じることをないよう十分な配慮を払うとともに，著作権の侵害に対し学会が対応できるようにするため，具体的な措置として機関誌原稿執筆案内の著作権に関する規程を準用して下記の規程を設けております。

つきましては，平成2年8月以降投稿された標記論文等の著作権は原則として情報処理学会に帰属するものといたします。また，それまでに掲載された論文および投稿中でその後掲載された論文につきましても，必要な場合には本制度の趣旨にかんがみ規程を準用させていただくよう会員各位のご了承をお願いいたします。

記

情報処理学会研究報告，全国大会講演論文集，シンポジウム論文集 および学会単独主催の国際会議 Proceedings に掲載された論文等の 著作権の取扱い

1 著作権の帰属

- (1) 標記学会出版物に掲載された論文等（以下論文等という）の著作権は原則として本学会に帰属する。
- (2) 特別な事情により前項の原則が適用できない場合は著者と本学会との間で協議の上措置する。なお特別な事情としては次のような例を想定する。
 - 依頼論文等であって，その内容が著者個人でなく著者の所属する法人等に係るもので，著作権の本学会への移転帰属に関し当該法人等の了解が得られない場合。
 - 特別講演記事などで著者の了解が得られない場合。

2 著作権の本学会への移転帰属による運用効果 および運用上の措置等

- (1) 論文等の著作権は本学会に帰属するが，著作者人格権は著者に帰属する。ただし，著者が著者自身の論文等を複製・翻訳等の形で利用することに対し，本学会はこれに異議申立て，もしくは妨げることをしない。この場合著者は本学会に申し出を行い，また利用された複製物あるいは著作物中に出典を明記すること。

- (2) 本学会は論文等の複製をおこなうことができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (3) 第三者から論文等の複製あるいは翻訳等の許諾要請があった場合，本学会は理事会において審議し，適当と認めたものについて要望に応ずることができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (4) 前項の措置によって，第三者から本学会に対価の支払があった場合には関係する著者に報告の上，本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用する。

3 著作権侵害等に関する注意事項

- (1) 執筆に当っては他人の著作権の侵害，名誉毀損，その他の問題を生じないように十分に配慮すること。
- (2) 著者は公表された著作物を引用することができる。引用した場合はその出典を明示すること。
- (3) 万一，執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ，第三者に損害を与えた場合著者がその責を負う。

大学等における情報処理教育のための調査研究報告書 頒布のお知らせ

本学会では、文部省高等教育局から「大学等における情報処理教育のための調査研究」の委嘱を受け、大学等における情報処理教育検討委員会（委員長 野口正一）を設け2年間にわたり調査研究を行ってきました。

この調査研究は、大学、高専、短大等の情報専門学科における情報処理教育のなかからいわゆるコンピュータサイエンスの教育を総括的課題として取り上げ、高等教育機関における情報技術者の育成と学生に対するリテラシー教育を示唆しています。また、調査研究のねらいとして、前述の各教育機関における情報処理教育の実態を調査分析し、今後の情報処理教育のあるべき姿を探るとともに、具体的な方策「IPSJ CS カリキュラム J90」を提案して、その普及啓蒙と改善・発展をはかることを示しております。

本報告書の主要目次は、次のように構成されています。

- 第1章 研究の概要
- 第2章 コンピュータサイエンスのコア・カリキュラムの検討の目的
- 第3章 情報専門学科における現状と問題点
- 第4章 情報専門学科におけるコア・カリキュラム
- 第5章 わが国の情報系専門学科の暫定カリキュラム案
- 第6章 情報系専門学科における実験・演習
- 第7章 コンピュータサイエンスの試験問題の例
- 第8章 今後の課題
- 第9章 まとめ 付録文献等

この報告書を次の要領でおわけいたします。申込書（1枚1人使用のこと）を郵便、または FAX にて下記までお送りください。

頒布価格 3,000 円（送料、消費税込）

申込み・問合せ先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社) 情報処理学会 研究会係
Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

..... 申 込 書

大学等における情報処理教育のための調査研究報告書

フリガナ
 申込者氏名 _____
 連絡先所属 _____ Tel. _____ FAX _____

送本先 住所 所属 氏名	〒 _____ _____ _____ _____ 殿	希望部数 _____ 部 請求書 _____ 通 見積書 _____ 通 納品書 _____ 通 請求宛名 _____ ◀送本用宛名ラベルに使用のため 楷書にてご記入ください
-----------------------	---	---

送金方法（該当欄に○印願います） * 名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 (社) 情報処理学会

- 現金書留 郵便振替（東京 5-83484） 持参
- 銀行振込（いずれも普通預金口座）

● 送金先銀行名 _____ ● 送金名義人 _____
 ● 送金に関する問合せ先 担当者名 _____ Tel. _____ - _____

第一勧銀虎ノ門支店 1013945	住友銀行東京公務部 10899	太陽神戸三井銀行 4298739
三菱銀行虎ノ門公務部 0000608	富士銀行虎ノ門支店 993632	三和銀行東京公務部 21409

「情報システムの計画と設計」平成3年12月上旬刊行

情報処理学会編・培風館発行 B5判・312頁・定価5400円（消費税込）

本書は、本会が開催した「情報システムの計画と設計チュートリアル」のテキストをもとに、チュートリアル受講者の反応を加味し、新たな章を加えるなど内容面の充実と、読みやすく・わかりやすい表現への改訂を行い再編集したものである。

全体は下記目次のように5部構成となっている。

- I 部：情報システムの構築がどのように行われるか、その中で計画・設計がどのような意味をもち、そこで何が行われるかの全体像を、SIS への対応を含め論ずる。
- II 部：計画・設計の中心である新しい“システムの姿”を描くのに使われる基礎的な分析・設計技法を解説する。
- III 部：CASE の概念と現状、および適用の考え方、CASE に含まれるソフトウェア新技術について述べる。
- IV 部：企業から提供されている方法論について、方法論とはいかなるものか、情報システムの計画・設計段階で発する個々の問題に対し、具体的にどのような進め方があるか、各方法論がどのような体系でつくられているか生を解説する。
- V 部：幅広い知識と識見が要求されるシステム設計者の教育・育成に関する問題を論ずる。

■ ユーザ企業のコンピュータ部門、コンピュータメーカ、ソフトハウスなどの情報システム構築の担当者、大学・研究機関における研究者、学生を対象とする。

I 部 情報システム計画・設計の概要

1. 情報システムの構築にあたって
2. 経営モデルと情報化戦略

II 部 基礎的なシステム分析・設計技法

1. データ主導型システム分析・設計技法
2. SSADM：構造システム分析・設計法
3. ジャクソンシステム開発法
4. オブジェクト指向
5. オブジェクト指向分析・設計法

III 部 システム設計支援環境

1. CASE の現状と導入方法
2. CASE 環境に含まれる新技術

IV 部 情報システム計画・設計方法論

1. 経営戦略とシステムの融合：METHODE/1

2. 経営戦略と情報技術：UNISIS ARCHI-TEC-TURE と RSDM & PPP
3. SIS 構築の方法論：HIPLAN
4. 業務部門主導型のシステム開発方法論：PRIDE
5. AI, OR を適用した問題解決指向型システム設計：SOLOMON
6. 戦略的システム構築：SSCM
7. 問題分析からシステム概要設計へ：PROMOTION/DP
8. システム要求分析技法：C-NAP II
9. これからのアプリケーション開発環境：AD/Cycle

V 部 システム設計者の学ぶもの

よりよい情報システム構築のために

和文索引 欧文索引

- 注文は培風館または最寄りの書店にてお求めください。（情報処理学会では扱っておりません）

支部だより

北海道支部 情報処理北海道シンポジウム '92—Info-Hokkaido '92

日時 平成4年4月24日(金) 9:00~17:00

会場 北海道大学学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)

特別講演 13:00~14:30(聴講自由, 聴講無料)

演題 情報システムの内と外

関口 恭毅(北大)

チュートリアル 9:00~12:00

内容 失敗しない UNIX ネットワークの構築とその管理

三谷 和央, 南 弘征(北大)

参加費 情報処理学会会員及び賛助会員 3,000円, 一般 5,000円, 学生(大学院生を含む) 1,500円

参加費は当日会場受付で支払うこと。

申込方法 電話または官製はがきで, 住所, 氏名, 電話番号, 所属学会, 勤務先または大学名・学科・学年を下記の事務局まで連絡すること。申込みは, 開催日の1週間前まで, 定員(30名)になり次第締切り。

一般講演 9:00~12:00, 14:30~17:00(聴講自由, 聴講無料)

講演者 特に制限なし(登壇発表は1人1件とする)。

講演内容 情報処理に関する最近行った研究及び調査の報告, 新しい企画及び開発の報告, 新製品(ソフトウェア, ハードウェア, システム)の紹介など。

講演時間 形式(1) 15分以内(質疑応答時間を含む), 形式(2) 30分以内(質疑応答時間を含む)。

講演形式 OHPの使用のみとする。

講演予稿 オフセット印刷による。公募原稿は所定の原稿用紙を使用すること。講演者には講演論文集を1部進呈する(別刷は取扱わない)。

申込方法 下記の事務局への申出により講演申込書と原稿用紙を交付する。

講演参加費 予稿1頁につき2,000円(但し, 4頁以内とする)。

原稿締切 平成4年3月13日(金)午後5時必着。下記の事務局へ講演申込書及び原稿に講演参加費を添えて提出すること。

事務局 060 札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学工学部情報工学科内 情報処理学会北海道支部
Tel. 011 (716) 2111 (内 6819)

中部支部 講演会

日時 平成4年1月24日(金) 13:30~15:30

会場 信州大学工学部103番講義室

演題 データ圧縮法の現状と動向

横尾 英俊(群馬大)

参加費 無料(参加資格は問いません)。

問合せ先 信州大学工学部情報工学科 山本博章 Tel. 0262 (26) 4101

講演会

日時 平成4年2月4日(火) 15:00~16:30

会場 三重大学工学部大会議室(三重県津市上浜町1515)

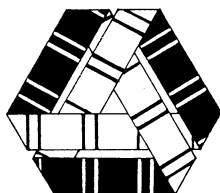
演題 メカトロニクスの知能化—ニューロファジーの融合—

内川 嘉樹(名大)

参加費 無料(参加資格は問いません)

問合せ先 三重大学工学部情報工学科 椎野 努 Tel. 0592 (32) 1211

会議案内



各会議末のコードは、整理番号です（*：本年既掲載分，**：昨年既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手 72 円を同封のうえ、請求ください。（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

国際会議

OECD '92—第4回 オプトエレクトロニクスコンファレンス (001)

- 1992年7月15日(水)～17日(金)
- 幕張メッセ(千葉市中瀬)
- 主催:(社)電子情報通信学会
論文送付先:(財)日本学会事務センター内 OEC 事務局
気付 伊澤 達夫, 中村 道治
Tel. 03 (3817) 5831, FAX 03 (3817) 5836
- 講演申込締切:1992年2月20日(木)
参加費:一般27,000円, 学生6,000円

「経済・経営と情報技術」国際会議 (CEMIT '92/CECOIA 3) (**037)

- 1992年8月31日(月)～9月4日(金)
- 京王プラザホテル(新宿)
- 107 港区赤坂 8-5-32 赤坂山勝ビル
(株)インターグループ内
CEMIT 92/CECOIA 3 事務局
Tel. 03 (3479) 8391, FAX 03 (3479) 2475

IWMM—Int'l. Workshop on Memory Management (002)

- September 17-19, 1992
- Saint Malo, France
- Evelyne LIVACHE IRISA/INRIA—Rennes, Campus Universitaire de Beaulieu, 35042 RENNES Cedex, France. Email: bekkers@iris.fr, Tel. (+33)99 84 71 00, FAX (+33)99 38 38 32
- 論文締切:1992年3月27日

国内会議

日本経営情報学会第3回 研究部会合同シンポジウム「超企業ネットワーク」

- 1992年3月7日(土)
- 神戸商科大学三木記念講堂(神戸市西区)
- 日本経営情報学会
Tel. 0463 (92) 2211, FAX 0463 (93) 0554

日本索引家協会第11回 セミナー「非文字資料のインデックス」

- 1992年3月14日(土)
- 軽子坂 MN ビル(東京都新宿区揚場町)
- 日本索引家協会事務局
Tel. 03 (3763) 7581, FAX 03 (3764) 1350
- 参加費:会員5,000円, 非会員6,000円
参加申込締切:1992年1月24日(金)

第15回 国際会議のための準備セミナー—英語によるプレゼンテーションの実際—

- 1992年3月20日(金)～21日(土)
- 海外職業訓練センター研修施設(千葉市ひび野)
- (社)日本工学会
Tel. 03 (3475) 4621・5618, FAX 03 (3403) 1738
- 参加費:80,000円
参加申込締切:1992年3月6日(金)

91—No. 18 シンポジウム「Smart Vehicle の開発、現状と課題」

- 1992年3月31日(火)
- コクヨホール(東京都港区港南)
- (社)自動車技術会 技術交流部門
Tel. 03 (3262) 8211, FAX 03 (3261) 2204
- 参加費:会員15,000円, 学生4,000円, 会員外30,000円

ロボティクス・メカトロニクス講演会 '92

- 平成4年6月16日(火)～18日(木)
- 川崎市産業振興会館(幸区堀川町)
- (社)日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門
Tel. 03 (3379) 6781, FAX 03 (3379) 0934
- 講演申込締切:平成4年1月24日(金)

第11回 シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス

- 平成4年6月24日(水)～25日(木)
- 川崎市産業振興会館(予定)
- 日本シミュレーション学会
Tel. 03 (5379) 1236, FAX 03 (3225) 1814
- 発表申込締切:平成4年2月1日(土)

AI '92

- 平成4年7月7日(火)～9日(木)
- 東京流通センター(大田区平和島)
- 日本経済新聞社 事業局総合事業部 AI '92 運営事務局
Tel. 03 (3243) 9083
- 入場料:1,000円

教官募集



○大学等情報関係教官募集

愛知技術短期大学情報技術科

募集人員 助教授・講師・助手各1名
 所在地 愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2
 専門分野 情報処理教育担当 (FORTRAN)
 応募資格 (以上いずれの場合も) 65歳未満で、修士修了、または同程度の教歴・研究歴のある者。
 採用時期 平成4年4月1日
 提出書類 履歴書、業績リスト
 応募締切 平成4年1月20日
 送付先 456 名古屋市熱田区神宮 4-7-21
 問合せ先 学校法人電波学園人事部 熊崎・田中
 Tel. 052 (681) 2299 FAX 052 (682) 3017

福井大学工学部情報工学科

募集人員 助教授または講師1名
 所属 情報システム講座
 専門分野 人工知能関連分野
 担当科目 情報工学関連科目(学部専門科目、大学院(MC)専門科目)(特に基礎、理論、ソフトウェア、実験)
 応募資格 年齢が40歳位までの博士の学位を有し、情報科学の分野で研究実績がある者。講師の場合には近々博士号取得が確実な者でもよい。
 上記専門分野で共同して研究する意欲と協調性があり、情報工学科の専門課程および大学院における教育と研究指導にあたる者。なお、本学部では平成5年度からDCの設置を計画・予定しており、DCにおいても教育と研究指導にあたる事が望まれる。

決定後、なるべく速やかに。
 履歴書(連絡先も明記する)、研究業績目録(論文、著書、講演予稿(国内、国際別に、国内分は論文で発表していないもの)、総説、その他の項目別に)、主要論文別刷り(200字以内の簡単な説明を添付)、教育実績(現在およびこれまで担当してきた教育について、大学名、科目名、期間、内容などの簡潔な説明)。
 研究に関するこれまでの経過と将来の展望、上記専門分野における研究計画、情報科学教育に関する意見、希望、抱負、などについて簡潔に記したものを。

推薦書、問合せのできる方(複数可)の氏名と連絡先(これらについては必ずしも必要ではない)。
 平成4年2月15日
 910 福井市文京3丁目9番1号
 福井大学工学部情報工学科主任 奥村彰二
 0776 (23) 0500 (内2825) または 0776 (27) 8580 (ダイヤルイン)
 「情報工学科教官応募書類在中」と朱書し、書留。

神奈川工科大学工学部情報工学科

募集人員 (1)教授または助教授1名、(2)助教授または講師1名
 専門分野 (1)は基本ソフトウェア(OS、言語処理等)、(2)はヒューマンインタフェース(音声・文字・画像認識、人間工学)

応募資格 博士の学位を有し、上記専門分野で研究業績のある者
 着任時期 平成4年4月1日
 提出書類 履歴書、研究業績リスト
 応募締切 平成4年2月28日
 送付先 243-02 厚木市下荻野 1030
 神奈川工科大学情報工学科 石井博章
 問合せ先 Tel. 0462 (41) 1211 FAX 0462 (42) 3737

東邦大学理学部情報科学科

募集人員 教授または助教授計2名
 所属 理学部・情報科学科
 専門分野 計算機部門—計算機科学およびその関連分野(1名)、情報処理部門—画像処理、時系列解析およびその関連分野(1名)
 応募資格 博士の学位を有する者
 着任時期 なるべく早い時期
 応募締切 平成4年2月29日
 提出書類 履歴書、研究業績一覧、主要な論文・著書の別刷りまたはコピー
 送付先 274 船橋市三山 2-2-1
 東邦大学理学部情報科学科主任教授 松尾 強
 Tel. 0474 (72) 1141 FAX 0474 (75) 1855
 松尾 強 (内3602)、小林英治 (内3622)
 「応募書類在中」と朱書し、書留。

九州工業大学情報工学部

募集人員 助教授1名
 専門分野 数理情報(論理数学、計算とアルゴリズム論、計算モデルとプログラム言語、グラフ理論、言語理論とその応用、ソフトウェア科学、人工知能基礎論等)
 応募資格 博士の学位を有する者
 着任時期 平成4年度のできるだけ早い時期
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷、本人についての所見を求め得る人の氏名、所属、および連絡先(住所、電話)
 応募締切 平成4年3月末日
 送付先 820 飯塚市川津 680-4
 九州工業大学情報工学部知能情報教室主任 原尾政輝
 Tel. 0948 (29) 7612 (原尾)
 0948 (29) 7600 (主任事務室)

福岡工業大学情報工学科

募集人員 教授または助教授1名
 所属 情報工学科
 専門分野 情報・通信・電子工学関連分野
 担当科目 計算機工学、情報通信システム工学に関連した科目
 応募資格 専門分野のうち特に担当科目に関連ある課題についての研究業績があり、博士の学位を有する者。教育経験のある55歳以上または35歳以下の者が望ましい。
 大学院(修士課程・計画中)の研究指導も可能な者
 着任時期 平成4年10月1日または平成5年4月1日
 提出書類 履歴書、研究業績リストおよび主要論文の別刷
 応募締切 平成4年5月31日
 送付先 福岡工業大学教務課長 石田隆男
 811-02 福岡市東区和白東 3-30-1
 Tel. 092 (606) 3131 (内2242)
 問合せ先 福岡工業大学情報工学科 教室主任 小野俊彦 (内2357)

福岡工業大学工学部電子工学科

募集人員 教授1名
 所属 電子工学科
 担当科目 電子情報機器学(電子回路, 論理回路など)または
 情報処理工学(計算機工学, アセンブリ言語など)
 専門分野 電子・電気・情報工学・およびその関連分野
 応募資格 上記の専門分野を専攻し, その分野の博士の学位
 を有し, 教育経験を有する60歳以上の者
 大学院(修士課程・計画中)の研究指導も可能な者

着任時期 平成5年4月1日
 提出書類 履歴書, 研究業績リストおよび主要論文の別刷
 応募締切 平成4年2月29日
 送付先 福岡工業大学教務課長 石田隆男
 811-02 福岡市東区和白東 3-30-1
 Tel. 092 (606) 3131 (内 2242)
 FAX 092 (606) 8923
 問合せ先 福岡工業大学電子工学科教室主任 山下鹿喜智
 (内 2358)

雑報



○研究者海外派遣および外国人研究者交流助成募集

情報科学国際交流財団は, 情報科学の国際交流推進事業の一環として, 将来を担うべき有能な研究者の国際的研究交流に要する費用の一部を助成いたします。年間80名から100名程度の方の助成を予定しております。

1. 助成の種類(渡航目的)

(1) 研究者海外派遣助成

海外で開催される情報科学に関する国際会議で研究論文発表もしくは招待講演を行うために渡航する若手の研究者(留学生も可)に, その渡航費および滞在費の一部を助成いたします。

(2) 外国人研究者交流助成

下記①, ②に要する渡航費および滞在費の一部を助成いたします。

申請は受入れ者または外国人研究者本人のどちらでも可。ただし, 受入れ側が申請者となる場合は和文申請書, 外国人研究者が申請者となる場合は英文申請書を使用してください。

① 情報科学に関する国際会議(開催地は日本以外も可)で研究論文発表もしくは招待講演を行う外国人研究者の受入れ。

② 学術研究機関での調査研究また共同研究を行う外国人研究者の受入れ。

2. 応募の資格

(1) 情報科学に関する基礎的な学術研究活動を行う研究者であること。

(2) 大学等学術研究機関またはこれと同等と認められる機関に所属する研究者(大学院生も可)であること。

(3) 所属機関の長, 国際会議の組織委員長等, 当財団の役員・評議員のいずれかの推薦があること。

(4) 国際会議参加の場合は, 論文採録通知または招待状があること。ただし, 論文審査中の場合はその旨を明記し, 通知があり次第, 報告すること。

3. 応募の方法

渡航目的によって様式が異なりますので, 所定の申請書

および審査資料に必要な事項を記入し, 当財団に提出してください。なお, 複写して申請しても結構です。

4. 助成金額

原則として, 助成金額は地域別に15~35万円の定額といたします。

5. 対象渡航期間および締切日

渡航時期によって募集期が3期に分かれておりますので, 下表を参考に申請してください。ただし, 外国人研究者交流助成で, 予定渡航日の3カ月以上前に選考結果が必要な場合は, 募集期を繰りあげて申請しても結構です。

募集期	募集開始~締切	結果	渡航期間
前期	平成3.12.1~4.1.31	2未	4月~7月
中期	平成4.2.1~3.31	4未	6月~9月
後期	平成4.6.1~7.31	8未	10月~平成5.3月

6. 選考結果通知

助成の決定は当財団選考委員会の審査を経て理事長が行い, 結果は締切日の1か月後に通知いたします。

7. 照会先および申請書提出先

107 東京都港区南青山 5-9-15 共同ビル
 (財)情報科学国際交流財団 Tel. 03 (5466) 1761

OC&C 振興財団「国際会議論文発表者助成候補者募集」

海外で開催される国際会議において, 半導体デバイス技術, 情報処理技術, 電気通信技術およびこれらの融合する技術分野に関する論文発表をする研究者に対して, 往復の渡航費と滞在費を補助します。

助成金額 12万円~32万円(なお, 会議開催地により増減します。)

助成対象者 国内の大学または国立及びこれに準ずる研究所に在籍する研究者(原則として, 40歳以下)を対象とします。

推薦の方法 財団所定の推薦書に従い, 候補者の所属大学または機関の上司の推薦を得て, 財団事務局まで直接提出してください。推薦書の入手をご希望の方は, 財団事務局までお申出ください。

区分	募集締切日	助成対象の国際会議の期間
平成4年度前期	平成4年2月28日	平成4年5月1日~ 同年11月末日
平成4年度後期	平成4年8月28日	平成4年11月1日~ 平成5年5月末日

問合せ先 108-01 東京都港区芝 5-7-1

(財)C&C 振興財団(担当御宿)
 Tel. 03 (3457) 7711 FAX 03 (3798) 6599

論文査読をお願いした方々へ

論文誌編集委員会
欧文誌編集委員会

学会の機関誌，なかでも論文誌および欧文誌の刊行は学会の最も重要な活動の一つであります。それだけに論文の査読にあたっては，内容の技術的水準や，読み易さなどを定める非常に責任の重い仕事であります。その性格上，直接報いられることの少ない，奉仕的なものにならざるを得ません。とくに論文誌，欧文誌ともに複数の査読者による並列査読を実施しており，多くの方々に大変なご無理とご協力，ご尽力をお願いいたしております。

もとより平成3年1月から12月までにご査読をお願いした方々のお名前の一覧表を掲げるだけでは，査読者のご苦勞の万分の一にも報いたことにならないことは明らかであります。ここに学会としての感謝の意の一端を表わすとともに，各論文誌をさらに充実したものとすべくゆくために，今後とも一層のご協力をお願いする次第です。

相澤 輝昭，	相田 仁，	阿江 忠，	青山 幹雄	絹川 博之，	紀 一誠，	木下 俊之，	木村 泉
秋山 泰，	阿草 清滋，	浅井 清，	麻田 治男	木村 宏一，	木村 文彦，	清木 康，	久世 和資
浅田 稔，	浅野 正一郎，	浅野 孝夫，	饒坂 恒夫	久野 靖，	久野 義徳，	久保 秀士，	倉田 政彦
東 基衛，	阿曾 弘具，	安達 淳，	阿部 圭一	栗原 定見，	樽松 明，	黒川 利明，	郡司 隆男
安部 憲広，	天海 良治，	天野 真家，	天野 英晴	計 宇生，	小池 誠彦，	小池 汎平，	小暮 潔
雨宮 真人，	荒屋 真二，	有川 節夫，	有木 康雄	小島 功，	古関 義幸，	小谷 善行，	後藤 滋樹
有澤 博，	有山 正孝，	安西祐一郎，	飯島 純一	小長谷明彦，	小原 和博，	小林孝次郎，	小林 重信
飯島 正，	五十嵐 滋，	五十嵐善英，	池田 克夫	小堀 研一，	小山 謙二，	小山 照夫，	近藤 邦雄
池田 尚志，	池原 悟，	池辺八洲彦，	井越 昌紀	斎藤 和巳，	斎藤 信男，	佐伯 元司，	酒井 博敬
井佐原 均，	石井 光雄，	石井 裕，	石浦菜岐佐	坂上 勝彦，	榑 博史，	坂田 眞人，	坂部 俊樹
石川 徹也，	石崎 雅人，	石塚 満，	石畑 清	坂間 千秋，	櫻井 彰人，	佐々木建昭，	佐藤 和洋
磯道 義典，	出澤 正徳，	伊藤 潔，	伊藤 紘二	佐藤 興二，	佐藤 泰介，	佐藤 匡正，	佐藤 誠
伊藤 秀昭，	稲垣 耕作，	稲垣 康善，	茨木 紘秀	真田 英彦，	佐藤 充，	塩谷 勇，	篠田 陽一
今井 達也，	井宮 淳，	岩田 清，	岩間 一雄	篠原 武，	柴山 潔，	渋谷 政昭，	島田 俊夫
岩丸 良明，	上田 和紀，	上原 邦昭，	植村 俊亮	島津 明，	嶋津 好生，	清水謙多郎，	清水 茂則
浮田 輝彦，	牛島 和夫，	宇田川佳久，	宇都宮公訓	下郡慎太郎，	下辻 成佳，	尺長 健，	首藤 公昭
宇津宮孝一，	馬野 元秀，	梅谷 征雄，	梅村 護	白井 克彦，	白井 良明，	白井 英俊，	白石 博
浦野 義頼，	海老原義彦，	大岩 元，	大久保英嗣	白川 功，	白鳥 則郎，	末永 康仁，	末吉 敏則
大沢 裕，	大島 正毅，	大田 友一，	太田 好彦	杉浦 洋，	杉江 昇，	杉江 衛，	杉藤 芳雄
大槻 説乎，	大西 淳，	大野 和彦，	大野 侑郎	杉原 厚吉，	杉原 正顕，	杉本 和敏，	杉山 健司
大蒔 和仁，	大森 健児，	岡崎 彰夫，	岡崎 芳	杉山 公造，	鈴木 敦夫，	鈴木 健司，	鈴木 千里
岡田 直之，	岡田 博美，	岡本 栄司，	小川 克彦	春原 猛，	関 浩之，	関口 智嗣，	仙波 一郎
小川 均，	小川 英光，	小川 隆一，	奥乃 博	曾根 光男，	曾和 将容，	高岡 忠雄，	高木 幹雄
奥村 学，	小沢 一雅，	小沢 正典，	小鹿 丈夫	高野 彰，	高橋時市郎，	高橋 直久，	高橋 延匡
落水浩一郎，	尾内理紀夫，	翁長 健治，	小野 令美	高橋 義造，	高藤 政雄，	高松 忍，	高村 真司
小野里好邦，	小野寺秀俊，	小柳津育郎，	小柳 滋	瀧 和男，	滝沢 誠，	竹内 章，	竹内 郁雄
小柳 義夫，	海尻 賢二，	嘉数 侑昇，	碓崎 賢一	竹内 純一，	竹下 亨，	竹谷 誠，	田胡 和哉
柿本 正憲，	笠原 博徳，	鍛治 勝三，	柏岡 誠治	田島 譲二，	多田 好克，	田中 克己，	田中 二郎
梶谷 洋司，	梶原 信樹，	勝野 裕文，	加藤 和彦	田中 穂積，	田中 正次，	田中 康仁，	棚橋 純一
加藤 俊一，	加藤 英樹，	加藤 聰彦，	金崎 克己	谷口倫一郎，	田畑 孝一，	田町 常夫，	田丸 啓吉
金谷 健一，	金子 正秀，	金田悠紀夫，	加納 弘	田村 進一，	田村 直良，	田村 秀行，	近山 隆
上村 務，	亀田 壽夫，	川合 慧，	河合 滋	千葉 則茂，	中所 武司，	槻木 公一，	辻 洋
川合 敏雄，	河口 英二，	川口喜三男，	川越 恭二	鶴岡 邦敏，	鶴田 節夫，	鶴保 征城，	鶴丸 弘昭
川崎 淳，	河田 汎，	河田 勉，	川戸 信明	手塚 正義，	寺井 秀一，	寺井 正幸，	寺田 松昭
川西 宏，	河原 英紀，	河村 知行，	韓 太 舜	寺田 実，	寺野 隆雄，	土井 聡之，	棟上 昭男
神田 陽治，	上林 弥彦，	神戸 尚志，	岸本 一男	富樫 敦，	戸川 隼人，	徳田 雄洋，	徳永 健伸
北風 晴司，	北川 博之，	北橋 忠宏，	喜連川 優	徳山 五郎，	都倉 信樹，	戸沢 義夫，	富田 悦次

富田 眞治, 富田 文明, 豊川 和治, 豊田 順一
 鳥居 達生, 苗村 憲司, 長尾 真, 中川 聖一
 中川 鞏夫, 中川 裕志, 中島 隆之, 中島 秀之
 中嶋 正之, 中田 育男, 中田 修二, 中田 登志之
 永田 守男, 中谷 広正, 中西 正和, 中野 良平
 中前 栄八郎, 中村 克彦, 中村 順一, 中村 史朗
 中森 眞理雄, 名取 亮, 並木 美太郎, 南谷 崇
 新実 治男, 仁木 和久, 西尾 高典, 西木 俊彦
 西関 隆夫, 西田 健次, 西田 豊明, 西田 富士夫
 西田 友是, 西見 二昭, 西村 和夫, 西村 恕彦
 新田 克己, 新田 義彦, 野崎 昭弘, 箱崎 勝也
 橋田 浩一, 橋爪 宏達, 橋本 昭洋, 橋本 正明
 長谷川 秀彦, 発田 弘, 服部 光宏, 馬場 敬信
 馬場口 登, 浜田 長晴, 林 達也, 原尾 政輝
 原嶋 秀次, 原田 賢一, 原田 耕一, 原田 実
 坂東 忠秋, 疋田 輝雄, 一松 信, 日高 達
 日比野 靖, 平川 正人, 平木 敬, 廣瀬 健
 廣瀬 正, 廣瀬 通孝, 深澤 良彰, 福井 義成
 福江 潔也, 福島 邦彦, 福田 晃, 福村 晃夫
 房岡 璋, 藤田 昌宏, 藤野 喜一, 藤原 秀雄
 藤原 謙, 伏見 信也, 二木 厚吉, 松津 重宏
 古川 康一, 古川 哲也, 別府 良孝, 星 守
 穂坂 衛, 穂鷹 良介, 堀内 一, 堀越 彌
 本位田 眞一, 前川 禎男, 牧野 武則, 牧之内 顕文
 増永 良文, 松尾 文碩, 松方 純, 松崎 功保

松下 温, 松下 武史, 松田 晃一, 松田 茂広
 松田 孝子, 松田 裕幸, 松原 仁, 松本 裕治
 松本 吉弘, 松山 隆司, 真名 垣昌夫, 真鍋 義文
 眞野 芳久, 間野 浩太郎, 丸山 勉, 丸山 文宏
 三浦 大亮, 三浦 孝夫, 水谷 博之, 水野 忠則
 溝口 徹夫, 南川 忠利, 峰尾 欽二, 美濃 導彦
 宮内 ミナミ, 三宅 康二, 宮崎 正俊, 宮地 利雄
 宮野 悟, 宮本 衛市, 宮本 俊介, 三吉 秀夫
 向殿 政男, 村井 純, 村井 真一, 村上 国男
 村木 一至, 村島 定行, 室田 一雄, 元田 浩
 森 健一, 森 正武, 森田 正典, 諸橋 正幸
 八重 樫純樹, 矢島 章夫, 矢島 敬二, 安井 敏雄
 安浦 寛人, 安田 孝美, 安村 通晃, 谷内 田正彦
 矢野 米雄, 山口 和紀, 山口 高平, 山口 喜教
 山崎 進, 山下 眞一郎, 山田 輝彦, 山田 尚勇
 山本 彰, 山本 和彦, 山本 修一郎, 山本 強
 山本 哲朗, 山本 昌弘, 湯浅 太一, 横尾 英俊
 横井 茂樹, 横田 治夫, 横田 将生, 横田 実
 横矢 直和, 吉川 正俊, 吉澤 康文, 吉田 将
 吉田 紀彦, 吉田 裕之, 吉武 静雄, 吉村 一馬
 吉村 賢治, 吉村 猛, 米澤 明憲, 米田 友洋
 米田 信夫, 若菜 忠, 渡辺 一郎, 渡辺 治
 渡部 和雄, 渡辺 勝正, 渡辺 定久, 渡辺 琢美
 渡辺 坦, 渡辺 正信, 渡辺 喜道, F. M. キッシュ
 M. J. マクドナルド.

編集室



会員の声

- 大学院生などを対象とした、最新のトピックスなどを解説した記事をもっと掲載してほしい。
(匿名希望 大学院生)
- 巻頭言に対して
「情報処理連邦」にふさわしい学会誌にするには、毎号2割くらいは一般性のきわめて高い、たとえばG. M. ワインパークの一連の著作のような記事載せるのがよい。
(梶原秀明 沖電気工業)
- 最近巻頭言等において学会の有り方や学会誌の編集方針について改革の意向が示されることが多く、本気であるような気もするので読者のひとりとして忌憚のない意見を述べさせていただきたく筆を執りました。

情報処理の世界は正に期待と不安が渦巻く最中にあります。それはゴルバチョフのソ連邦に比肩しうるくらいです。何となれば、まずはダウンサイジングの風潮の中でメインフレーム産業とその技術はどうなるのだろうと、10兆円産業の行く末に心配している人がいます。強気の人もいるようですが、それは一部のメインフレーム・メーカーの方々であって、吹けば飛ぶような下請けソフト業界の技術者は冬の寒風の最中首を凍める状況です。

夢をかきたてる人工知能の研究にしても、ロボット優位の世の中をもたらずのでは悲劇だし、さりとて夢のままに終わるのはソフト業界への余波も好ましからぬものがあるでしょう。

はたまたパソコンが家庭に入ってくるとすれば、電話のごとき双方向性のものとなって民主主義の高揚に役立つのか、それともTVのごとく一方性のものとなって管理社会の強化に行くのか大変気がかりなことでもあります。

このように情報処理に携わる者にとってはいざなぎ景気を越えるかどうかよりも遥かに気になる現象が進行中であるのに、学会誌で取り上げられるテーマには憂き世離れしたものが多くのように思われます。したが

って社会の行く末の方が心配な読者には物足りない感を与える点は否めません。

とはいえ、特色あるテーマについてできるだけ分かりやすく紹介しようとなさっている執筆者のご努力にはいつも敬意を払っております。ただ特集の組み方に単調さを感じられる向きは多いのではないのでしょうか。

例えば 11 月号小特集「チンパンジーの認知と言語」について言えば、比較認知というアプローチが人工知能の研究に有効かどうか疑問視する人達がいるかもしれません。つまり大前提のところに問題があるので、それは論争の種を提供し、比較行動学の分野に読者の関心を引き寄せるような編集もできるはずですが、もっとも週刊誌に墮さない配慮は必要ですが。

しかし「前提は問題ないのですよ」「さあ各論に行きましょう」ではどういう観点で評価したらよいのか困ってしまいます。かねがね京都学派の方々の研究には期待しかつ尊敬しておりますが、情報処理で取り上げるのであれば社会生物学の視点とのコントラストを明確にさせていただけたらと思いました。

さすれば情報化社会の中で機械システムと人間社会の調和をどう図ればよいかという問題に貴重な示唆を与えると考えます。小生にはチンパンジーから即人間への図式は短絡的すぎるように思われます。

それはそれとして学会誌にはいろんな使命があり、いちがいに決めつけるのは無理でありましょう。有識者のご主張は全てもっともなものばかりですから要は選択の問題であるわけです。

いずれにせよ 3 万人を超える読者の大多数にとって、貴重な学会誌がツン読から廃品回収の転落コースを辿るものとならないような配慮こそもっとも求められているのではないのでしょうか。

(古閑 政 群馬情報電子専門学校)

事務局だより

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

本年は学会誌も通巻第 33 巻を数え、人間ならば知力、能力、体力などパワー全開という時期でしょうか。このことは創刊号以来、学会の成長発展とともに編集に携わってこられた多くの方々が、その世代、世代の先導的な役割を果たすべくご苦勞と努力をなさってこられた賜で、大きな學術資産となっています。

さらに、ここ数年は情報処理に関する學術、技術、応用の急速な進歩、發展、多様化、分野の専門化・高度化などに、いち早く対応し高度で新しい情報を分かり易く書いていただき、会員に読み易く親しんでいただくという、極めて困難な課題に取り組んでおられます。昨年 10 月の全国大会（名古屋大学）でのアンケートを拝見すると、ご自分の専門研究分野が、掲載されていない場合の対応に関する回答が一番多かったように感じました。それだけに、親しまれ、読まれ、社会性のある学会誌にしていくことは、大変なことと考えますが、苦勞のしがいもあるのではないかと、大きな期待をしております。

また、本年の主な行事として、①第 44 回全国大会が 3 月 17 日から 20 日に明治大学理工学部（生田校舎）、②第 45 回全国大会が 10 月 11 日から 14 日に徳島大学教養部、③第 12 回分散処理システム国際会議（ICDCS）が 6 月 9 日から 12 日に横浜国際平和会議場、④IFIP（情報処理国際連合）Congress '92 が 9 月 7 日から 11 日にスペインのマドリッドで開催されます。このほかの行事を含めて、学会活動を活性化し、活発化していくためにも、関係委員の方々をはじめ、会員の皆さま方のご参加とご協力をお願い申し上げます。

なお、学会の活動拠点としての事務所を 10 月にエステック情報ビル（西新宿）に移すことで準備を進めております。そこで、新しい環境を有効に利用して、学会活動の活性化を計っていくためのご提案、ご意見をお待ちしております。

事務局も学会の發展にお役に立つよう、会員サービスを念頭において努めております。会員の皆さま方から、ご指導、ご支援をいただければ幸いです。

(飯塚 浩司)